



さわらび

第 81 号

発行元:十和田市立中央病院 地域医療連携室

発行責任者:室長 蘆野 吉和

十和田市西十二番町14番8号

TEL 0176-23-5869

FAX 0176-21-1234

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/02renkei/04sawarabiNews.html>

より幅の広い地域医療連携構築に向けて

～院内連携から院外連携、そして地域住民の皆さんとの連携へ～

今後確実に到来する超高齢化・多死社会を支えるためには、病
病・病診だけではなく、介護・福祉・行政等との幅広い連携が必要
になると言われています。この状況を称して「大連携時代の幕
開け」というような文言が躍っているのも事実です。このような
時こそ原点に戻り、「連携」ということについて見つめ直すことも
必要であろうと思います。連携の基盤は、突き詰めて行くと個人
と個人の顔の見えるお付き合いということになります。確固たる
連携を構築するためには、人間力とも言える人柄を土台とした「信
頼」が必要になります。信頼のない連携は、実態のないわべだ
けのお付き合いに他なりません。



十和田市立中央病院
院長 丹野 弘晃

まずは、基本である院内連携がスムーズにできているのかを振り返ってみましょう。院内連携の核となる
チーム医療はうまく機能しているのでしょうか。スポーツにおけるバックアップ体制のような連携ができている
のでしょうか。ある職種のメンバーが力を発揮しやすいように、そのチーム内で少し余裕のある他職種のメン
バーが支える。そして、活躍すべき職種が変われば、バックアップするチーム員も変わっていくという流れ
が自然に出来ていれば合格ということでしょう。

このような院内連携を土台にして、各ご施設との院外連携が構築されていると思います。私自身すべてで
はありませんが、各ご施設を訪問させていただいて、細かな不具合はあるものの概ね順調に運用されている
のかなと感じています。貴重なご指摘もいただきましたが、そのひとつに救急患者対応の充実がございます。
当院としても現在のマンパワーで出来る限りの救急診療を行ってはいませんが、まだまだ不十分な点があると思
います。当院の方針として、症状が安定した患者さんは、積極的に逆紹介をさせていただき、そこで新た
に生まれる時間とマンパワーを急性期医療への対応に振り向けたいと考えています。

連携にからむ問題については、地域住民の皆さんのご理解ご協力も必要です。私も含めた当院スタッフが
直接出向き、住民の皆さんへの健康教育を推進する中で、当院へのご意見・ご要望をお伺いする機会を増や
して行きたいと思います。加えて、当院からも適正受診やかかりつけ医の必要性等について丁寧にご説明し、
より質の高い診療に繋げて行きたいと思っています。

以上のように幅広い地域医療連携を推進しながら、医療従事者やその関連の皆さんとはもちろんのこと、
地域住民の皆さんとの「信頼」も構築して行きたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

「緊急被ばく医療の講演&実施セミナー」の開催



放射線科 診療放射線技師 悪原 徹

平成24年12月16日（日）に十和田市立中央病院で開催されました。今回の緊急被ばく医療に関する講習では、【放射性物質による汚染を伴う傷病者を受け入れる想定】で被ばく医療の一連の流れを体験させていただきました。

被ばく医療の簡単な流れとして、①スタッフ招集（医師、看護師、診療放射線技師）、②受入れ準備（処置エリア設定、医療スタッフの防護準備）、③患者の受入れ（医療情報、汚染状況）、④医療処置・除染・レントゲン撮像、⑤患者の退出（患者の汚染検査）、⑥医療スタッフの退出（医療スタッフ防護脱装、スタッフの汚染検査）、⑦処置エリア解除、汚染検査という上記の流れになります。

実際にこの一連を体験してみて、普段の医療もそうですが緊急被ばく医療でもチーム全体が協力しなければ迅速に医療処置を行うことができないと感じました。また、各々が緊急被ばく医療に対して何をしなければいけないかを頭にいれて行動しなければ、いざこういう事態がおきても対処できないと感じました。そのためにも、緊急被ばく医療に対する知識をしっかりと勉強し、共有できるようにしたいと思います。

平成24年11月患者数実績：資料提供 医事課

入院患者数(一般)	221.6人
外来患者数(一般)	615.0人
平均在院日数	12.6日
病床利用率	68.2%

紹介率	61.5%	逆紹介率	40.4%
-----	-------	------	-------



外 来 診 療 担 当 医 表 平 成 25 年 1 月

十和田市立中央病院 平成25年1月7日～

担当科	月	火	水	木	金
消化器内科	高井哲史(1)	高井哲史(2)	高井哲史(1)	高井哲史	佐藤守彦
	佐藤守彦(2)	佐藤守彦(1)	佐藤守彦(2)		
糖尿病外来			片野春人(応援医師)		藤原史門(応援医師)
呼吸器内科	工藤優	工藤優	工藤優	工藤優	工藤優
	東北大応援医師				
循環器内科	小山滋豊	小山滋豊	小山滋豊	小山滋豊	小山滋豊
	藤原崇之	藤原崇之	藤原崇之	藤原崇之	藤原崇之
	東山優美子	東山優美子	東山優美子	東山優美子	東山優美子
				東北大応援医師(隔週)	東北大応援医師(隔週)
総合診療科 (内科部門)	宮川晃	宮川晃	宮川晃	宮川晃	宮川晃
	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦
	石橋和也	石橋和也		石橋和也	石橋和也
がん総合診療外来	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦	吉村純彦
	丹野弘晃				
甲状腺外来			丹野弘晃		
外科	小田聡	丹野 弘晃	菊地 大介	杉田純一	交代で担当する
		阿部永			
乳腺外来			外科医師	外科医師	外科医師
整形外科	田澤浩司	菊池明	田澤浩司	菊池明	田澤浩司
脳神経外科	善積威	善積威	外来診療なし	善積威	善積威
	赤坂健一	竹田哲司		赤坂健一	竹田哲司
神経内科					工藤雅子(応援医師)
小児科	小田誠	小田誠	小田誠	小田誠	小田誠
	工藤雅庸	工藤雅庸	工藤雅庸	工藤雅庸	工藤雅庸
	弘前大応援医師		応援医師 (第1週を除く)		
婦人科	富浦一行	富浦一行	富浦一行	富浦一行	富浦一行
泌尿器科	成田直史	寺井康詞郎	成田直史	寺井康詞郎	
眼科	関野尹夫			関野尹夫	関野尹夫
耳鼻咽喉科	藤原文明	藤原文明	弘前大応援医師	応援医師	藤原文明
皮膚科	菅原正幸	菅原正幸	菅原正幸	菅原正幸	菅原正幸
		東北大応援医師(隔週)	東北大応援医師(隔週)		
ペイン クリニック					深田祐作
メンタル ヘルス科	谷地森康二	谷地森康二	谷地森康二	谷地森康二	谷地森康二
	竹内淳子	竹内淳子	竹内淳子	竹内淳子	竹内淳子

※(1)は一診、(2)は二診

(資料提供：医事課・外来)

お知らせ

十和田市立中央病院 大忘年会が行われました

平成 24 年 12 月 14 日（金）18：30 から富士屋グランドホールにて恒例の十和田市立中央病院大忘年会が開催されました。参加者人数は約 190 名とたくさんの職員並びに連携先医療機関の先生方にもご参加いただき誠にありがとうございました。

にぎやかに楽しく交流がはかれ、有意義な忘年会となりました。



葛の会 会長

関野先生の乾杯でスタート

楽しく交流をはかる
先生と職員のみなさん



草野政真ピアノリサイタル



平成 24 年 12 月 15 日（土）ピアニストの草野政真氏をお招きしピアノリサイタルを開催しました。

世界的にも有名な草野氏の演奏は温かく、柔らかく味がありながらも力強く迫力のある演奏を奏でてくださいました。土曜日の夕方にも関わらず、集まった約 70 名の観客は、草野氏のピアノに魅了され一足早いクリスマス気分を味わいました。

【厚生労働省在宅医療連携拠点事業】

第 2 回 リンパ浮腫研修会



平成 24 年 12 月 5 日（水）「さわらび会館」においてリンパ浮腫研究所所長の佐藤佳代子先生をお招きし、第 2 回リンパ浮腫研修会を開催しました。当日は約 30 名の近隣医療機関の関係者が集まり、リンパ浮腫の基礎を学ばれました。また勉強する機会があったら参加したいと好評でした。

病院事業管理者退任に伴う変更事項について

平成 25 年 1 月 5 日付けをもちまして、十和田市病院事業管理者・蘆野吉和は退任いたしました。

今後は当病院長・丹野弘晃が十和田市病院事業管理者職務代理者として職務を代行いたします。



今月のアート「新雪の朝です」撮影 畑中光昭